２０２３年８月 27 日　さよなら久米川テニスコート

1978 年 4 月 16 日(日)久米川テニスコートオープン(ホームページ「ガット 1978 年 2 月号～5 月号」をご覧ください)
から、45 年の長きに亘り使用して来ましたが、2023 年 8 月 31 日をもってクローズになりました。
8 月 27 日(日)に市民テ最後の練習日に「さよなら久米川テニスコート」に集まっていただいた皆さんでの集合写真です。

この文章を書くに当たっての時系列から書いてみたいと思います。
まず久米川コートは、市民テと伴に今年で 50 年の歴史を刻んできたホームグランドでした。私は、会長に就任した年の総会で初心声明として【私たちは、市民テ精神により一致団結して健康で明るい快適なテニス環境を作ります。】宣言しました。
久米川コートをホームとして利用している市民テにとって当時のコートコンディションが最悪な状態が続いていた状況を見て我々が出来る範囲で整備協力を出来ないかと体育協会に申し出た経緯があり、申し出てから 2 年かかり一期目は、2007 年(平成 19 年)4 月から整備業務を受託して 2010 年(平成 22 年)3 月迄の 4 年間続けましたが、平日メンバーの編成に支障が出てきた事で継続を中止しました。この間の収益金の使用として 1 年目前期分 16.7 万円は、本部会計に寄付し、後期分から試験施工の為、塩カリ・荒木田の補助材料を購入しました。その後協力メンバーと話し合い今後は、有効利用となるかを良く吟味してからと言う事で全てストックしました。その後 2011 年(平成 23 年)に東日本大震災の義援金として 35 万円を寄付、2016 年(平成 28 年)に熊本地震義援金として 25 万円を寄付、同年の第 19 回柳杯援助金として 31.4 万円を援助しました。
継続を中止してから 5 年間ソフトテニス連盟が整備委託を受注していましたが、白線が浮き上がった状態で満足にプレーが出来なくケガの恐れもある状況から、再度協力者を募り 2017 年(平成 29 年)の 6 月から再受託し二期目を開始しました。収入金は平日協力者が不可欠であり市民テの活動以外の業務である事から協力者全員に労務代価として支払う事で再スタートしました。2018 年(平成 30 年)は 45 周年冊子製作費を拠出、2019 年(令和元年)の第 22 回柳杯に一部援助金拠出等があり、多少なりとも社会・市民テに貢献できたのではと思います。この整備受託は、2023 年(令和 5 年)8 月迄で結果的に一期・二期を併せて都合 10 年 6 か月実施した事になりました。
この整備業務に関して色々な体験をしました。初期 2005 年(平成 17 年)には、市民テの有志達と当時の細渕市長他と久米川コートの掘起こしに関しての話し合いを実施、その後 2017 年(平成 29 年)に久米川コート掘起こしの請願書を多くの人の協力により提出しました。個人的には整備受託 3 年目は、12 月 24 日定年と言う事で会社からの紹介会社を断り、仕事をやめ 8 か月間 1 人で朝から夕方まで 1 人で整備をやり続け違った人生観を味わった事です(初代柳会長が言った事で嫌なことでも誰かがやらなければならない)、二期目の再受託では一期目とは違い多数の女性陣が協力してもらった事で男性とは違った目線もあり長期間継続出来、市民テの精神でもある「全員は一人のため、一人は全員のため」という「協力」を実感できたことは本当に一期・二期協力者メンバーに感謝、感謝です。今後は、クレーコートの整備業務はないですが塩カリ散布方法、散水方法、荒木田による整形方法、ローラー転圧方法等初期の時から格段の進歩・進化があった事や測量器具の段取り、ローラーが古く騒音苦情があったり動かなくなったりの苦労した事が今になってみれば楽しい思い出で私にとって人生の 1 頁です。「さようなら久米川テニスコート」
これからは、引続き全会員の協力のもと前川公園コートをホームグランドとして盛り上げてください。

市民テニスクラブ協議会　会長　川路俊一